「反逆の印鑑」

―修正稿―

2026/11/10

初稿　脚本太郎
修正稿　さいの

〈人物表〉

黒川　慎平（２７）　サラリーマン

坂下　実（７０）　清掃員であり印鑑術の達人

佐川　健蔵（５７）　黒川の上司で部長

課長（４５）

係長（３７）

黒川の父（３８）

幼少期の黒川（６）

1.

株式会社丸バツ本社ビル・オフィスの一角（昼）

黒川慎平（２７）、手元には印鑑と稟議書。

稟議書に並ぶ空の押印欄を見て黒川、鼻で笑う。

2.

株式会社丸バツ本社ビル・部長席（昼）

佐川健蔵（５７）、悠々と稟議書に押印。

押印欄に横一列に並ぶ部長、課長、係長、担当の印。

部長の佐川に向かって傾いており、お辞儀ハンコに。

満足げな佐川、次の書類を見ては、眉間に皺。

3.

株式会社丸バツ本社ビル・オフィスの一角（昼）

佐川、黒川の背中を叩く。稟議書を差し戻し。

課長、係長の印はお辞儀しているが、担当の黒川の印、お辞儀しておらず、縦になっている。

黒川、やれやれと苦笑いして、拒否。

直立して向かい合う二人。並んでみると佐川の方がずっと背が大きく、黒川が見上げるような格好。

一触即発の雰囲気。

と、カンカンカンカンとゴングの音。

4.

株式会社丸バツ本社ビル・リング（昼）

オフィスの一角にあるプロレスのリング。

赤コーナー。白の空手道着姿の黒川、入場。

若手社員ら、「お辞儀ハンコ　気持ち悪い」の横断幕を手に声援を送る。黒川、手を振って応える。

青コーナー。ムエタイ姿の佐川、入場。

セコンドの課長と係長、部長の佐川に深々お辞儀。

佐川、「お辞儀ハンコは文化」の鉢巻をキュッと巻き、臨戦態勢。課長と係長、拍手で盛り上げる。

試合開始のゴング。

両者、にらみ合う。

黒川の連続空手パンチ。

佐川、嘲笑うかのように悠々とかわす。

リーチが足りず、なかなか間合いに入れない。

対する佐川のハイキック、空振り。どよめく場内。
黒川、長い脚から逃れるのに必死で、また離される。
黒川、深くしゃがみ込み、その時を待つ。
佐川が足を上げた瞬間、もらったと言わんばかり、
踏み込んで正拳突きを叩き込もうとする。
が、届かず、先に佐川のハイキックが頭に命中。
黒川、床に倒れこむ。
佐川、黒川の手を掴み、稟議書に無理やり押印。
押印欄。黒川の印、佐川に向かって横に倒れている。
佐川、黒川を足蹴にして、頭を床に踏みつける。
スリーカウントを取られ、勝負あり。
勝利に沸く佐川と、課長、係長ら中堅社員たち。
対する、意気消沈の黒川ら若手社員たち。
清掃員の坂下実（７０）、遠くから様子を見ている。

5. 株式会社丸バツ本社ビル・オフィスの一角（昼）

黒川、腹を括って退職届に署名。
押印しようとするが、誰かに退職届を取られる。
清掃員の坂下である。黒川よりもずっと小柄。
黒川、坂下から退職届を取り戻そうとする。
が、揶揄うかのように軽々とかわされ、驚く。
坂下、あれを見ろと、佐川の方を指す。
笑顔の佐川、書類の山を社員のデスクに乗せていく。
ヘコヘコする中堅社員と、迷惑そうな若手社員。
黒川、印鑑を握る手にギュッと力。
坂下、「坂下流印鑑術　入門届」の紙を差し出す。
黒川、逡巡して、押印。

6. 坂下の道場（昼）

坂下、一礼して入室。
続く黒川、キョロキョロしながら入室。
「一印入魂」「印よく剛を制す」「千里の道も一印
から」「打倒シャチハタ」などの額に入った印影。
すると、道着姿の門下生ら、急いでやってきて坂下

の前にずらっと一列に並ぶ。
黒川、門下生の一人に道着を渡される。

7. 坂下の道場（昼）

門下生ら、瓦割りに励んでいる。手には印鑑。
黒川、見よう見まねで印鑑を振り下ろす。
が、積まれた瓦、一枚も割れない。
坂下、やってきて、紙束を渡す。
紙には百ます計算のような大量の押印欄。
黒川、やれやれと一つ押印。
坂下、印影を見て、朱色の筆でバツを付ける。
坂下、お手本とばかり、印鑑の背にピタリと人差し指を合わせ、その隣に押印。
垂直に、真っ直ぐ縦に押されている。
対する黒川の印影、少し傾いている。違いは歴然。
黒川、印鑑の背に人差し指を合わせ、慎重に押印。
坂下、じっくり印影を見て、朱色で丸を付ける。
黒川、続けて押印。坂下、丸。
黒川、ペースを上げてどんどん押印。
紙はたちまち黒川の印で埋め尽くされる。
黒川、いよいよ瓦に印鑑を振り下ろしてみる。
瓦、一気に何枚も割れる。
黒川、驚く。

8. 坂下の道場（昼）

門下生との組み手稽古。
黒川、門下生の攻撃をかわし、一閃。額に正拳突き。
門下生、おでこに真っ直ぐ縦に「黒川」の印を押され、倒れる。
黒川、次々門下生を倒していく。
そこに、ひときわ体格の大きな門下生が登場。
黒川、尻込むも果敢に攻撃。連続印鑑突き。
対する門下生、軽々とかわすも、ジリジリ間合いを詰め、黒川、一瞬の隙を突いてボディに押印。

しかし門下生、微動だにしない。

鼻で笑い、もっと打ってこいと仁王立ち。

黒川、印鑑の背に人差し指を合わせ、もう一度、真っ直ぐ縦に門下生のボディに押印。

何度も何度も押印するが、効いていない。

お返しに門下生、首根っこを掴み、軽々持ち上げる。

そのまま黒川の額に渾身の印鑑突き。ＫＯ。

9. ムエタイ道場（昼）

ムエタイ姿の佐川、課長、係長と二対一で練習。

二人、果敢に攻撃するも、佐川に軽くあしらわれる。

佐川のハイキック。課長に決まり、ＫＯ。

続いて、回し蹴り。係長、沈む。

佐川、こんなもんかと笑い、課長と係長の上に座る。

10. 坂下の道場（昼）

門下生ら、組み手稽古に励む。

道場の隅には、畳まれた一着の道着と一枚の紙。

坂下、気づき、紙を拾う。

黒川の印が押された退門届である。

坂下、稽古に励む門下生らに檄を飛ばす。

あの大柄な門下生を呼び、稽古相手を申し出る。

小柄な坂下、ほぼ真上に見上げるような格好。

門下生、動揺しつつ、がむしゃらに襲いかかる。

坂下、軽々と攻撃をかわしてあっという間に間合いに入り、門下生の額に印鑑突き。ＫＯ。

11. 黒川の自宅アパート（夜）

テレビだけが付いている薄暗い部屋。

画面には古いプロレスの試合映像。

空手道着を着た恰幅の良い正統派のレスラー、登場。

相手はいかにもという悪役レスラー。目の周りを真っ黒にペイントし、黒のロングタイツを履いている。

悪役レスラーは小柄で、体格差のあるマッチアップ。

黒川、額に包帯。氷で冷やしつつボケっと見ている。

空手の連続攻撃が決まり、大きな歓声。

されるがままの悪役、四の字固めにされ、カウント。

スリーカウント目前、勝負あったかというところで

空手、突然悪役から腕を離す。

空手、額から流血。どよめく会場。

12. （回想）かつてのプロレス会場（夜）

空手、流血する額を押さえ、悶える。

よく見れば、悪役の手にはフォーク。

悪役、空手の髪を掴み、フォークを額にブッ刺す。

血飛沫。悲鳴を上げる観客。

客席の一角、空き缶をリングに投げ、悪役に大ブーイングを飛ばす客。黒川の父（38）である。

着ているTシャツなどから、空手の大ファンの様子。

その傍ら、ボケっと見ている幼少期の黒川（6）。

客席の混乱にリングが気になるも、よく見えない。

気づいた父、肩車をしてやる。父、空手に声援。

黒川少年、見えたのは血ダルマにされている空手。

悪役、それでもフォークを突き刺すのをやめない。

二回、三回。血飛沫が上がる。観客の悲鳴。

黒川少年、その様子に目が釘付け。

悪役、何度も何度も、フォークを額にブッ刺す。

少年、気づけばそのたび、目を輝かせる。

空手の頭はもう真っ赤で、動いていない。

悪役、空手を押さえて、スリーカウント。勝負あり。

13. 黒川の自宅アパート（夜）

テレビの悪役、コーナーポストに跨り勝利を誇示。

ゴミや椅子など投げ込まれている。大ブーイング。

ふと黒川、指に血が付いているのに気づく。

14. 黒川の自宅アパート・洗面台（夜）

黒川、鏡に映る自分を見る。

包帯を外すと、おでこから痛々しく血が出ている。
ふと黒川、その血を両目の周りに塗ってみる。
さながら悪役レスラーのよう。
顔を見て、ニヤリと笑う。

15. 黒川の自宅アパート（朝）

稟議書。
担当の欄に真っ直ぐ「黒川」と押印する手元。

16. 株式会社丸バツ本社ビル・部長席（昼）

部長席で談笑する佐川と、課長、係長ら。
仕事中の若手社員ら、談笑の声がうるさそう。
突然、ビルのガラス窓が割れる。
驚く社員たち。
清掃用ゴンドラに乗っている何者か、手に持った印鑑で外から次々ガラス窓を粉砕し、フロアに侵入。
現れたのは目の周りを真っ黒にペイントし、黒のロングタイツを履いた男。黒川である。
焦った佐川、課長にどうにかしろと指示。
焦った課長、係長にどうにかしろと指示。
係長、やむをえずスーツを脱ぎ、ムエタイの姿に。
カンカンカンカンとゴングの音。

17. 株式会社丸バツ本社ビル・リング（昼）

黒川と、オドオドしたままの係長、対峙。
試合開始のゴング。
係長、大ぶりなハイキックとパンチを繰り出すも、軽々見切られる。距離を詰められ、焦る。
黒川、印鑑でトンっと軽く係長の額を突く。
係長、気絶。押さえ込みスリーカウント。勝負あり。
黒川、係長の手を掴み、稟議書の係長欄に押印させる。担当の黒川に対して逆にお辞儀する向き。

18.　**株式会社丸バツ本社ビル・部長席（昼）**

佐川、続いて課長に戦うよう指示。

課長、やむを得ずスーツを脱ごうとするが、その前に黒川、リングから飛び降りてくる。

そのまま弾丸のように額に印鑑突き。

あっという間に押さえ込みスリーカウント、ＫＯ。

稟議書の課長欄に、逆お辞儀ハンコさせる。

黒川、リングに戻り、佐川に手招き。

佐川、腹を括ってスーツを脱ぎ、ムエタイ姿に。

19.　**株式会社丸バツ本社ビル・リング（昼）**

佐川、ロープをくぐり、リングで二人が対峙。

試合開始のゴング。

両者、にらみ合う。

ゴンドラで登ってきた清掃員姿の坂下、駆けつける。

黒川、マシンガンのような連続印鑑突き。

佐川、あまりの速さに両腕をクロスにしてガード。

次々と腕に「黒川」の印影が刻まれていく。

その印影、真っ直ぐ縦でなく様々に傾いている。

佐川、反撃開始。

ハイキック、かと思いきやジャブのようなローキックを繰り返し、執拗に黒川の右膝を攻撃。

ついに黒川、ふらっと体勢を崩す。

すかさずハイキック。頭に決まる。どよめく会場。

黒川、ふらつきつつ、後退。ロープを掴む。

佐川、ここぞとばかり回し蹴りを、二発、三発。

モロに頭に食らった黒川、気絶するように倒れ込む。

佐川、勝利を確信し、一息。

瀕死の黒川を押さえ込みカウント。ワン、ツー……

黒川、意識が朦朧としている。

と、黒川に大きな声援。

見れば、大勢の若手社員ら、黒川を応援している。

黒川、印鑑を持つ手にギュッと力を込め、起きる。

起きがけにすぐさま連続攻撃。大声援。

油断していた佐川、ガードが遅れ、攻撃を受ける。
佐川のボディに刻まれていく無数の「黒川」の印影。
黒川、トドメとばかり額を目がけ、渾身の印鑑突き。
が、佐川、咄嗟に膝を上げてガード。
黒川の印鑑、折れる。
佐川、ニヤリ。
しかし黒川、攻撃を止めない。
折れた印鑑、佐川の額に刺さる。流血。悲鳴。
佐川、流血する額を押さえ、床で悶える。
黒川、佐川の髪を掴み、再び折れた印鑑を額に刺す。
坂下、その様子をジッと見ている。
二回、三回。血飛沫が上がる。観客の悲鳴。
黒川、それでも額に印鑑をブッ刺すのをやめない。
笑みを浮かべつつ、何度も、何度も。
声援を送っていた若手社員ら、次第にドン引き。
黒川、血ダルマになった佐川の頭を投げ捨てる。
押さえ込み、スリーカウント。勝負あり。
黒川、佐川に印鑑を握らせ、稟議書の部長の欄に真横になるほどの逆お辞儀ハンコを押させる。
黒川、コーナーポストに跨り、逆お辞儀ハンコが揃った稟議書を誇示する。
観客、大ブーイング。ゴミなど投げ込まれている。
と、リングに現れる何者かの影。
黒川、振り向くと、坂下である。
坂下、清掃員の制服を脱いで、道着に。黒川を手招くかのように、構える。手には印鑑。
黒川、コーナーポストから降り、床の血溜りから折れた印鑑を拾い上げる。
二人、対峙する。
坂下、黒川を少し見上げる格好。
試合開始のゴング。

（おわり）